

令和8年度 せらにし小学校教育研究計画

1 教育研究のテーマ

研究主題

「考える」授業を創造し、児童の主体性・思考力・表現力を高める
～正しく読み取り、自分の考えを形成する国語科説明的な文章の授業を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

子ども達がこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められることは変わらない。質の高い問いを設定し、児童が思考したり表現したりする授業を通して、主体性や表現力を高めていくことが大切である。

また、「小学校学習指導要領解説 国語編」では「言葉を取り巻く環境が変化する中で、読解力に関して改善すべき課題がある」「文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えること、目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題がある」と示されている。これらは主に文章を読むことに関する課題であり、国語で表現された内容や事柄を正確に読み取り、理解する資質・能力の育成が求められている。

近年、子ども達を取り巻く環境は変わり続けている。中でも、情報化が進んだことで、あらゆる手段で情報を受信したり発信したりすることができるようになった。情報の伝達や処理の重要性が飛躍的に増大し、これを中心として多方面にわたる社会的変革が推進された結果、生活の利便性は格段に高まった。反面、誤った情報や必要ない情報に振り回されたり、一部の情報だけにとらわれて自分の考えが偏ったりしてしまうことも起こっている。また、情報による知識は増えるものの、生身の人間と関わったり自然と触れ合ったりする機会は減っている。情報化社会を生きていくために、必要な情報を正しく読み取り、よりよく判断し、多様な人との関わりの中で自分の考えを形成していくことが、より一層求められている。

そのためには、国語科の授業を中心に、文章の内容を正しく読む力、文章から書き手の意図や目的を読み取る力、そして、読み取ったことをもとに自分の考えを形成する力を育むことが必要である。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標「自ら学び、たくましく生きる」を実現させるため、「自ら考え、自ら学ぶ児童」の育成を目指している。学習活動においては、児童が主体的に学習に取り組み、授業を通してしっかり考える姿、また、友達と関わり合いながら学ぶ中で、学びを深めたり自らの学びを振り返ったりする姿を目指していく。

(3) 本校の実態から

本校は、令和6年度まで「道徳教育推進拠点地域事業」の取組を行い、児童の発言が中心となり、児童同士の対話によって考えを深めたり広げたりする授業づくりを目指してきた。この取組を通して、自分の考えをもち、友達の考えを聞いて、しっかり考える児童の姿が見られるようになってきた。

昨年度は、国語科説明的な文章を読む授業に焦点を当て、児童の主体性・思考力・表現力を高めるための研究を進めた。児童が主体的・対話的に考えることができる基盤づくりをしながら、指導者が教材の特徴や身に付けさせる読み方をとらえ、単元構成や問いを工夫することで、児童が生き生きと考えることができる授業、また、正しく読むための読み方を身に付け、その力を生かして文章を読み深めることを楽しむような児童の姿を目指した。

令和7年度の標準学力調査の国語科の校内正答率は以下の通りである。

	国語科全体	読むこと	説明的な文章
令和7年度	84.6%	76.1%	79.3%
令和6年度	77.2%	70.0%	66.5%

構造と内容の把握（文章の内容）	82.1%
構造と内容の把握（段落・全体の内容）	63.8%
精査・解釈	85.9%

結果から、1年間の研究の成果が見られたものの、段落相互の関係や文章全体の構成をとらえることには課題が残った。これは、文章の内容は理解できているが、段落相互の関係や文章全体を俯瞰的に読むまでは至っていないということである。

まずは、児童に正しく読む力を身に付けさせることが大切だと考えた。文章の内容を読み取るだけでなく、段落相互の関係や文章全体の構成を読み取る力を身に付けさせ、文章を俯瞰的に読む力をつけていきたい。さらに、読み取った内容から筆者の意図や工夫に迫り、自分の経験とも重ねながら、考えを形成していくことにつなげていく。

また、発言する児童が固定化され多様な考えが出にくかったり、少人数という環境のため、自分の考えを様々な立場の人に伝える機会が少なかったりするという課題も見られた。多様な考えの中で自分の考えを形成し、同学年以外の人と関わりながら表現力を育んでいく必要がある。

そして、友達だけでなく、地域にある豊富な人的・物的資源を活用することで、これまで以上に対話を充実させ、形成した考えを広げたり深めたりしていきたい。昨年度身に付けた読み方をバージョンアップし、文章を俯瞰的に正しく読むことに加え、主体的に考え、他者との関わりを通して思考力や表現力を高めていく児童の姿を目指したいと考えた。

以上のことを踏まえ、研究主題を「考える」授業を創造し、児童の主体性・思考力・表現力を高める～正しく読み取り、自分の考えを形成する国語科説明的な文章の授業を通して～と設定した。

3 研究内容について

「考える」授業の創造に向けて

○教材分析と単元構成

- ・「教材分析シート」を活用して教材分析を行うことで、教材の特徴をつかむ。
- ・教材の特徴を生かした単元構成を行い、考えさせる場面や指導事項を明確にする。
- ・「読みの手引き」を活用し、読む視点を明確にして、読み方を身に付けさせる。
- ・児童の読みのズレから「問い」をつくり、児童が思考する授業を展開する。
- ・教科書教材で学習したことを別の教材で生かす単元構成にし、汎用的な読みの力を養う。

○系統性を意識したカリキュラム

- ・指導事項の系統性を意識し、つけたい力を明確にした授業づくりをする。
- ・学年に応じた読み方や用語を習得させることで、読む力を積み上げていく。

※「読むこと（説明文）における各学年の指導事項」参考

学びのペースづくりに向けて

○言語活動・対話の充実

- ・地域の人的・物的資源を活用して、ふるさと学習や言語活動を充実させる。
- ・話し合う視点を明確にして、対話によって考えを深めたり広めたりできるようにする。
- ・児童の対話を中心に授業のねらいに迫ることができるようなファシリテートを行う。

○ＩＣＴ機器やツールを活用した授業づくり

- ・ＩＣＴ機器を効果的に活用し、児童の学びの促進を図る。
- ・必要に応じて、児童が学びを深めるためのツールを活用する。

4 主な研究教科 国語科 「読むこと」 説明的な文章

5 研究仮説

国語科説明的な文章の学習において、正しく読み取り、自分の考えを形成するような「考える」授業を創造すれば、児童の主体性・思考力・表現力を育成することができるだろう。

6 検証の指標及び達成目標

検証方法と指標	対象	達成目標
標準学力調査をもとにした自作問題の、説明的な文章を読む問題における正答率	全学年児童	75%
市販テスト（まとめのテスト）における、標準得点を上回る児童の割合	全学年児童	75%
アンケートの肯定的評価の割合 ・該当学年で身に付けて欲しい読み方ができた ・友達との対話によって学びを深めることができた 等	全学年児童	80%
授業づくりアンケートの肯定的評価の割合 ・教材分析を行い、単元構成を考えた ・児童の対話を中心とした授業を通して、児童が学びを深めた 等	教職員	90%

<目指す児童の姿（説明的な文章を読むこと）>

	低学年	中学年	高学年
知識・技能（語彙・文や文章）	言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにする。また、文の中における主語と述語の関係に気付く。	言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにする。また、主語と述語、修飾と被修飾の関係、指示語や接続語や段落の役割について理解する。	語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにする。また、文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解する。
構造と内容の把握	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえる。	段落相互の関係に注目しながら、考えとそれを支える理由や事例などの関係などについて、叙述を基にとらえる。	事実と感想・意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。
精査・解釈	文章の中の重要な語や文を考えて選び出す。	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする。
考えの形成	文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をまとめる。	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをまとめる。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。
共有	文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる。
学びに向かう力	言葉がもつよさを感じるとともに、文章を読むことを楽しみ、言葉を大切に、思いや考えを読み取ったり伝え合ったりしようとする。	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く文章を読み、言葉を大切に、思いや考えを読み取ったり伝え合ったりしようとする。	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで文章を読み、言葉の大切さを自覚して、思いや考えを読み取ったり伝え合ったりしようとする。